

岩屋だよりー3号

2011年(平成23年)8月吉日

今年も早いもので、もうお盆の時期です。この時期にはご先祖様が各家に帰って来るといわれ、昔は玄関先に提灯を飾ったりしたものです。

今でもこの時期、お正月と並んで少し長めに休みになる企業や商店も多く、若者たちは同窓会とか開いて、旧交を温めている光景をよく目にします。

長崎北道場も、13と14日の土・日曜日は稽古休みですので、この機会に家庭サービスあるいは田舎での墓まいりとかなさってください。但し、この折からの猛暑です、熱中症や食べ過ぎなどによる食あたりにはご注意ください。

それと、お墓参りとかの際に、まだ地震、津波それに原発の影響が色濃く残る東北地方の方々のことにも思いを馳せながら、お参りしていただければ、と思います。

去る、7月24日(日)15時から1時間あまりでしたが、いつも稽古している道場内で演武大会を開催しました。

今回は久しぶりということで、だいぶ時間も空き、また暑い最中でしたが、皆さんそれぞれ自分なりに演武を一生懸命に行い、合計30組近くの演武ができました。

夕方からは、千歳町のホテルシーボルトでの懇親会、50名近くの会員(子どもを含む)や父兄の方々が参加し、楽しい一時を過ごすことができました。

次回は、11月13日(日)に少しこれまでとは趣を変えて、大がかりな演武大会を開催する予定ですので、よろしくご協力願います。

ちなみに、幹事は7月24日に指名されたFさんが快諾していただきました、ありがとうございます。よろしく願います。



幼年部会員の対、大人の技 決まった!

最近、合気道とはなにか、武道とはなにか、特に自分のこれからの残りの人生の中で、そこにかかわる合気道の意義とかについて、時々よく考えることがあります。

技の修練と並行して心も磨いていかないと、結局は人間としてのバランスが取れないような気がします。

特に現代では、武道より遙かに強い兵器とか出現してきた中で、道としての武術の鍛錬を行っていくためには、単に体的な強い、弱いの尺度ではなく、精神的な強さがより一層求められます。

この点を凝縮して、古今東西、いわゆる達人といわれる武道家は精進を重ね、「道」の探求に心砕いたのではないのでしょうか。

その合間に、その心を投影するために、静かに書画や茶道など、武道とは全く別の時間も持っていたのではないのでしょうか。

もとより何事も道半ばの身ですが、これからも精進したい思います。

7月のとある日、宮崎県北部、九州最後の秘境といわれる大崩山系の祝子川渓谷一帯を散策して来ました。

秋に、まだ、小生が未踏のこの山に登るための、下調べとトレーニングを兼ねてでしたが、さすがに梅雨末期で雨量が増した渓谷は迫力満点でした。



「夏来ても ただ一葉の 一つなり」 松尾 芭蕉